

令和5年度版

毛呂山町の財務諸表

令和7年4月

毛呂山町

目 次

1. はじめに	1頁
2. 財務諸表のしくみ	2頁
3. 財務諸表の相互関係について	3頁
4. 貸借対照表について	4頁
5. 行政コスト計算書について	5頁
6. 純資産変動計算書について	6頁
7. 資金収支計算書について	7頁
8. 財務諸表からわかる指標について	8頁

- 各表の数値は令和5年度一般会計等の決算等における数値を使用しています。
- 数値を四捨五入しているため、内訳と合計が一致しない場合があります。
- 人口は32,206人（令和6年4月1日現在）としています。
- ここでは各財務諸表の項目を簡素化しています。詳細は町公式ホームページに記載している「令和5年度決算財務書類」をご覧ください。



1. はじめに

現在の会計制度による地方公共団体の決算は、予算に対して実際にどのような収入・支出を行ったかの現金の収支に重点を置いているよ。これは、どのような事業にどのくらい金額を使ったかが明確にわかるため、事業内容の検討や管理がしやすいといったメリットがあるんだ。

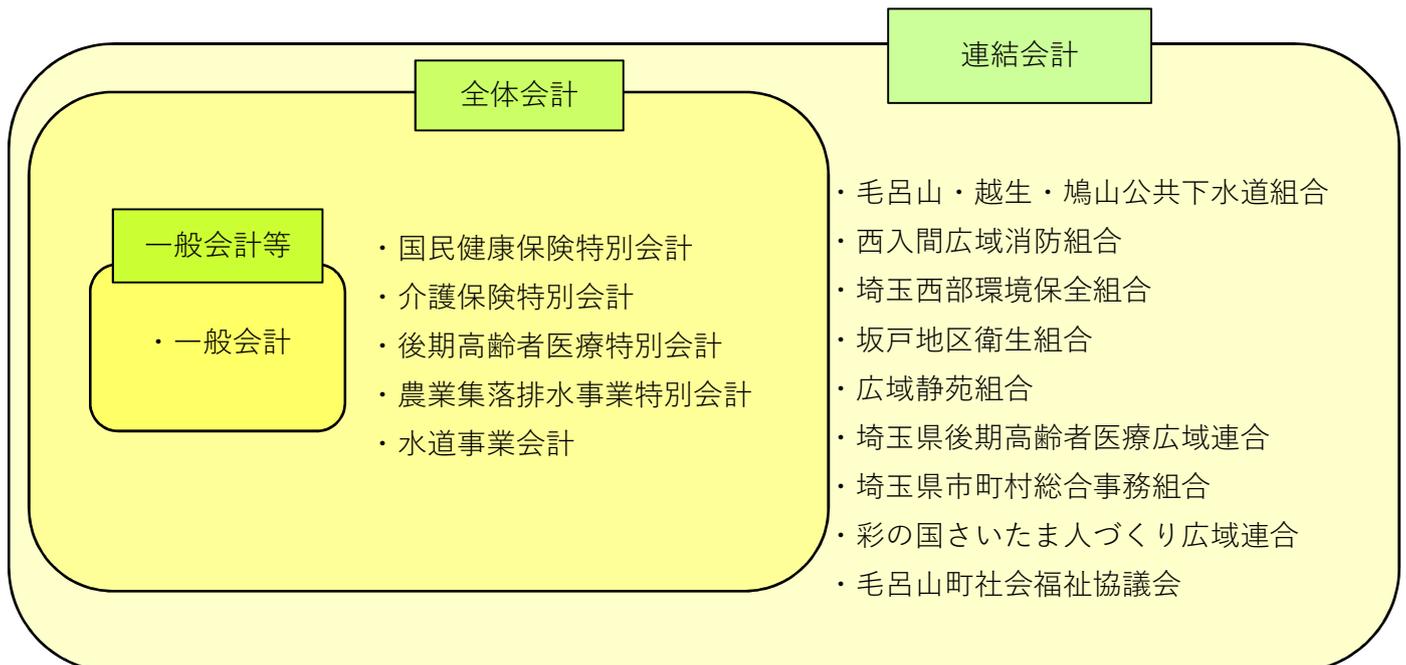
一方、将来にわたって負担しなければならない公債（借金）や、これまでに毛呂山町が整備し保有してきた施設・公園・道路などの資産、建物等の老朽化による価値の減少などがどのくらいあるのかなど現金の移動を伴わない情報が把握しづらいという課題があったよ。



こうした課題を解決するため、毛呂山町では地方公会計制度を取り入れ、これまでの会計制度では見えなかった情報を明らかにするために財務4表を作成し公表しているよ。

【財務諸表の会計区分】

毛呂山町の決算では、一般会計のほかに、特別会計である国民健康保険特別会計、介護保険特別会計、高齢者医療特別会計、農業集落排水事業特別会計、水道事業会計を作成し公表しています。他団体との比較は、一般会計等が中心となることから、一般会計等の区分で財務諸表の分析を行いました。



2. 財務諸表のしくみ



財務諸表ってどんなもの？
今までの決算書じゃわからないの？

財務諸表とは、町の決算書ではわからない土地・建物等の資産、借金の残高等の負債、建物等の老朽化に伴う価値の減少等の見えないコストを明らかにしたものだよ。



財務諸表には、どんなものがあるの？

●貸借対照表 ●行政コスト計算書
●資金収支計算書 ●純資産変動計算書
以上の4表を表したものが**財務諸表**と呼ぶよ。



財務諸表を家計に例えると？

- 貸借対照表**は、家庭の財産(資産)や住宅ローン(負債)、頭金などの負担済金(純資産)を示したものだよ。
- 行政コスト計算書**は、生活費などの日常的にかかる現金支出と、現金支出を伴わない減価償却費(注1)などの費用が1年間でどれだけかかっているかを示したものだ。
- 純資産変動計算書**は、家庭の財産のうち、将来返済しなくてよい資産(純資産)が1年間にどのような内容で増減したかを示しているよ。
- 資金収支計算書**は、家計においての家計簿にあたるよ。
1年間の現金の収入と支出を、日常生活の収支、財産購入の収支、借金返済や資金運用に分けているよ。

(注1) 減価償却費とは、車など資産の購入にかかった費用を、その資産の耐用年数で割った金額のことだよ。

例えば、普通自動車の耐用年数は6年とされているから、300万円の車を買くと6年間、毎年50万円が減価償却費として計上されるよ。



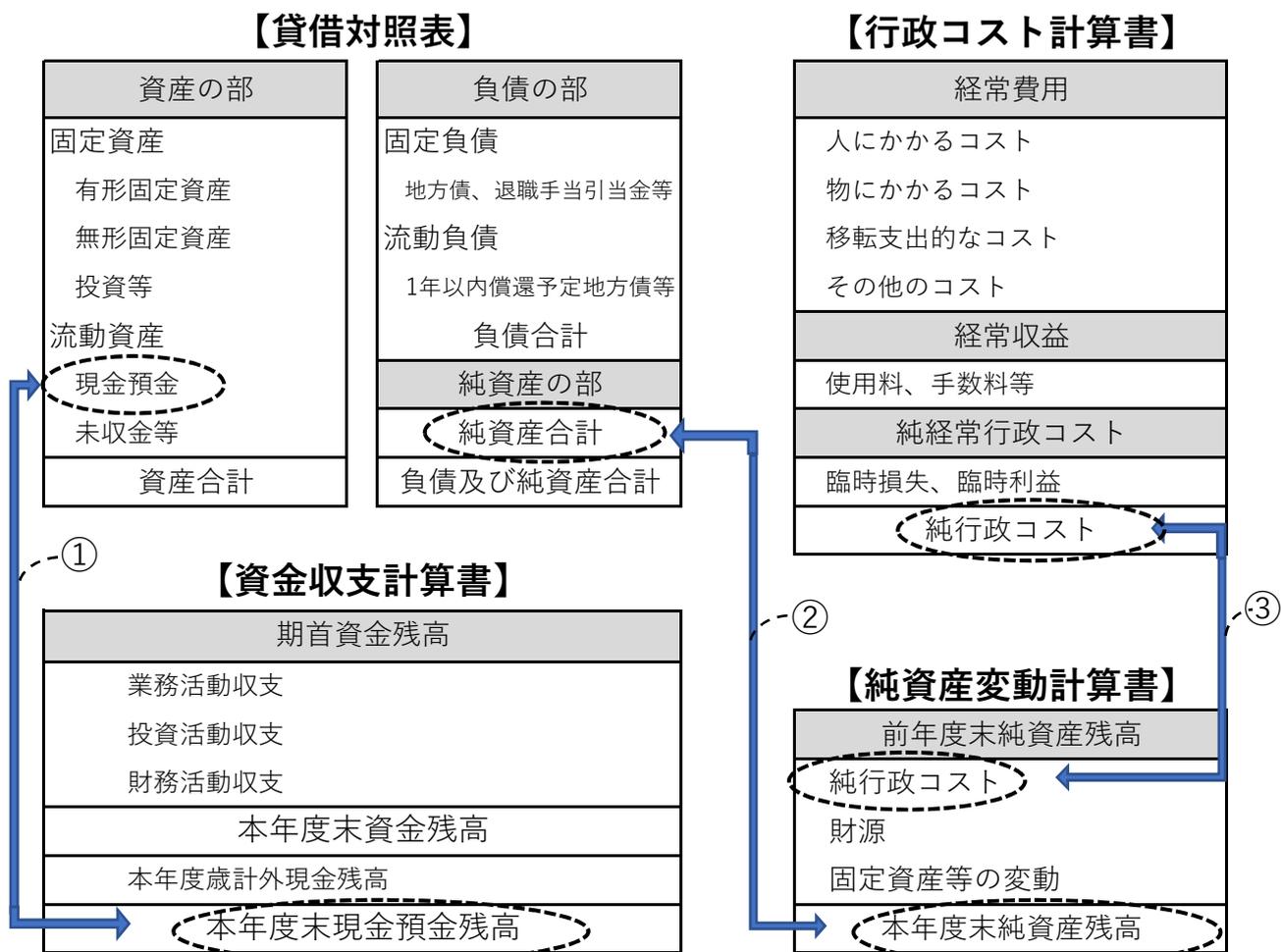
4つの表は何か関係し合ってるの？

図にしてみよう！
次のページで解説するよ！



3. 財務諸表の相互関係について

図にすると、財務諸表はそれぞれが密接に関係し、整合性が図られていることがわかります。



- ①貸借対照表のうち「現金預金」の金額は、資金収支計算書の本年度末資金残高に本年度末歳計外現金残高を足したものと対応します。
- ②貸借対照表の「純資産」の金額は、資産と負債の差額として計算されますが、これは純資産変動計算書の本年度末純資産残高と対応します。
- ③行政コスト計算書の「純行政コスト」の金額は、純資産変動計算書に記載されます。

それでは、実際に令和5年度の財務諸表を見ていってみよう



4. 貸借対照表について

貸借対照表は、町が行政サービスを提供するために保有している財産（資産）と、その資産をどのような財源（負債・純資産）で賄ってきたかを対照表示した一覧表です。

純資産とは、資産と負債の差額であり、公共資産整備のために投入された国県補助金や税収等が計上されます。

負債が「将来世代が負担する部分」であるのに対し、純資産は「現在までの世代が負担した部分」とみることができます。

貸借対照表は、必ず「資産＝負債＋純資産」という関係になります。

(単位：百万円)

資産の部		負債の部	
1. 有形固定資産	29,050	1. 固定負債	7,879
土地、建物、道路など		地方債、退職手当引当金など	
2. 無形固定資産	46	2. 流動負債	1,381
ソフトウェアなど		1年以内償還予定地方債など	
3. 投資その他の資産	1,803	負債合計	9,260
出資金、積立金など			
4. 流動資産	2,016		
現金預金、財政調整基金など			
資産合計	32,915		
		純資産の部	
		純資産合計	23,655
		負債及び純資産合計	32,915

※百万円以下四捨五入のため合計が実際の数値と合わない場合があります。

- 資産の部 …町が保有している道路や学校などの資産価値をお金で表しています。
- 負債の部 …町債償還金など、将来お金が出ていくことを表しているものです。

将来世代の負担といえます。

- 純資産の部…地方税や国や県からの補助金などを表しており、

今までの世代が負担したものです。

貸借対照表からわかったこと・・・

- 資産は、町民1人あたり約102万円
- 負債は、町民1人あたり約29万円
- 純資産は、町民1人あたり約73万円

純資産総額÷資産総額で計算される割合が高いほど、将来世代への負担が少ないことになるよ。

毛呂山町の場合は、

$73 \text{万円} \div 102 \text{万円} = 71.6\%$ になるよ。



5. 行政コスト計算書について

行政コスト計算書は、福祉サービスやごみの収集のように資産の形成につながらない行政サービスを行うため、どこにどれだけの費用がかかっているのか、そのサービスを受けるためにどのような収入でまかなったのかがわかります。

(単位:百万円)

経常費用 ①	10,741
1. 人にかかるコスト	2,011
2. 物にかかるコスト	2,765
3. 移転支出的なコスト(社会保障給付や補助金など)	5,500
4. その他のコスト(支払利息など)	465
経常収益 ②	207
1. 使用料・手数料	77
2. その他	130
純経常行政コスト ③(① - ②)	10,534
臨時損失 ④	0
臨時利益 ⑤	12
純行政コスト ③ + ④ - ⑤	10,522

※百万円以下四捨五入のため合計が実際の数値と合わない場合があります。



純行政コスト約105億2千2百万円は、町税などの一般財源や国・県からの補助金などでまかなっているよ。

行政コスト計算書からわかったこと・・・

- 町民1人あたりの行政コストは、約32万7千円。
この金額が小さいほど、
効率的な行政活動が行われていることを示しているんだ。



6. 純資産変動計算書について

純資産変動計算書とは、貸借対照表の「純資産の部」に計上されている純資産（資産から負債を除いた額）が前年度末に比べ、どのように変動したかを示したものです。貸借対照表のとおり、純資産は、資産を取得した財源の内訳のうち、負債以外の「将来返済する必要がないもの」であり、町税や国・県からの補助金などになります。

(単位:百万円)

令和4年度末純資産残高	23,911
令和5年度変動額	△ 256
1. 純行政コスト(△)	△ 10,522
2. 財源調達(税込、国県等補助金)	10,264
3. 固定資産等の変動	0
4. 無償所管換等	0
5. その他	2
令和5年度末純資産残高	23,655

※百万円以下四捨五入のため合計が実際の数値と合わない場合があります。

- 純行政コストは、行政コスト計算書の純行政コストの額と一致しているよ。
- 令和5年度末純資産残高は、貸借対照表の純資産の額と一致しているよ。



純資産変動計算書からわかったこと・・・

- 町民1人あたりの純資産は、約73万円
- 令和5年度内に得られた財源から純行政コストを差し引くと本年度差額がマイナスになるね。財源の不足分を純資産でおぎなったため、令和4年度末純資産残高にくらべ、令和5年度末純資産残高が減っているんだね。



7. 資金収支計算書について

資金収支計算書は、1年間の行政活動に伴う現金の動き（収入・支出）を、現金の使いみちにより、3つの区分に分類して示したものです。

- ①業務活動収支... 税金と職員給与・施設管理・物品購入など、通常業務に関する収支
- ②投資活動収支... 町の施設や道路などのインフラの建設、基金の積立・取崩に伴う収支
- ③財務活動収支... 地方債の発行・償還の収支

(単位: 百万円)

令和4年度末資金残高 ①	481
令和5年度資金収支額 ②	△ 83
1. 業務活動収支	958
2. 投資活動収支	△ 334
3. 財務活動収支	△ 707
令和5年度末資金残高 ① + ②	398

※百万円以下四捨五入のため合計が実際の数値と合わない場合があります。



資金収支計算書は、ほかの財務書類と違い、現金のみの表示となっているから、町の決算書に一番近い財務書類といえるね。

資金収支計算書からわかったこと・・・

- 税金や地方交付税などの財源が一定安定して収入されているから、業務活動収支で黒字が確保できているね。この黒字額が、投資活動や財務活動に活用されているよ。
- 町民1人あたりの本年度末現金預金は、約1万2千円だよ。



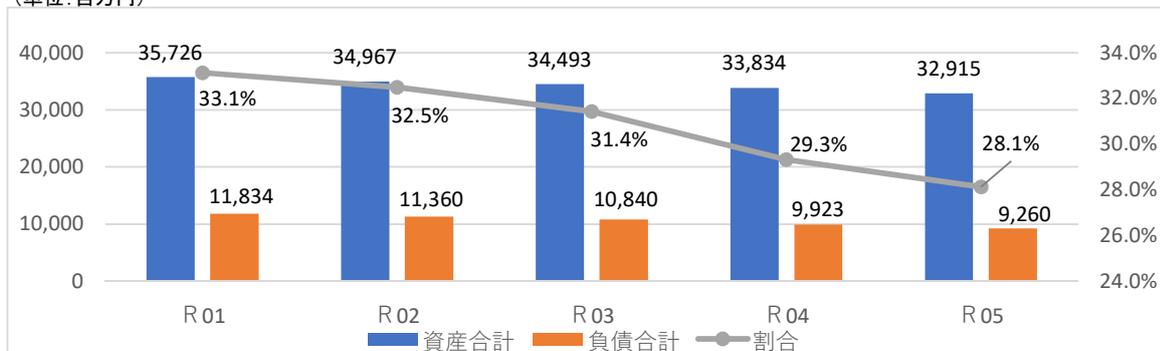
ここで紹介しきれなかった財務書類の補足説明資料である「附属明細書」、「注記」、特別会計などを加えた「全体会計」、さらに関連団体を加えた「連結会計」の財務書類は、町ホームページ「令和5年度決算財務書類」のページでご覧いただくことができます。

8. 財務諸表からわかる指標について



- 資産に対する負担の割合 = 負債の部 ÷ 資産の部合計
 地方債を含む負債の資産に対する割合、つまり、将来世代が負担する額の割合の推移を示しているよ。

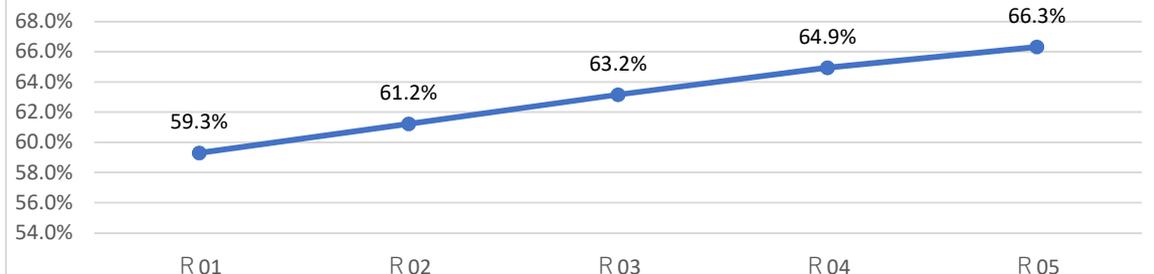
(単位:百万円)



- 有形固定資産減価償却率

減価償却累計額 ÷ (有形固定資産 - 土地 + 減価償却累計額)

有形固定資産のうち、償却資産(建物、工作物など物品以外の償却資産)について、耐用年数に対して資産を取得してからどの程度経過しているかを表すものだよ。



- 将来世代負担比率 = (地方債等 + 1年内償還予定地方債) ÷ 固定資産
 社会資本等の財源のうち、将来の償還等が必要な地方債(将来世代への負担)による調達割合を表しているよ。
 この割合が高いほど、将来世代の負担割合が大きい。ということになるんだ。

